



安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

昭和化学株式会社
 東京都中央区日本橋本町4-3-8
 担当
 TEL(03)3270-2701
 FAX(03)3270-2720
 緊急連絡 同上
 改訂日 2022/09/21
 SDS整理番号 08124250

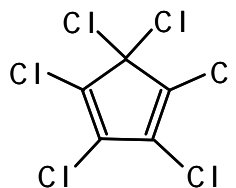
製品等のコード : 0812-4250、0812-4230

製品等の名称 : ヘキサクロロシクロペンタジエン

推奨用途 : 試薬

参考：その他の用途(当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。)
 樹脂硬化触媒、金属抽出剤、防錆剤、潤滑油添加剤 など

使用上の制限 : 推奨用途以外の用途へ使用する場合は化学物質専門家等の判断を仰ぐこと



2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

引火性液体 : 区分に該当しない
 自然発火性液体 : 区分に該当しない
 自己発熱性化学品 : 区分に該当しない

健康に対する有害性

急性毒性(経口) : 区分4
 急性毒性(経皮) : 区分3
 急性毒性(吸入:蒸気) : 区分1
 皮膚刺激性/刺激性 : 区分1
 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分1
 皮膚感受性 : 区分1
 特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分1(呼吸器、肝臓、腎臓)、
 区分3(麻酔作用)
 特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 区分1(呼吸器)、
 区分2(腎臓)

環境に対する有害性

水生環境有害性 短期(急性) : 区分1
 水生環境有害性 長期(慢性) : 区分1

注意喚起語 : 危険

危険有害性情報

飲み込むと有害(経口)
 皮膚に接触すると有毒(経皮)
 吸入すると生命に危険(蒸気)
 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷
 重篤な眼の損傷
 アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ
 呼吸器、肝臓、腎臓の障害
 眠気又はめまいのおそれ
 長期又は反復ばく露による呼吸器の障害

長期又は反復ばく露による腎臓の障害のおそれ
水生生物に非常に強い毒性
長期的影響により水生生物に非常に強い毒性

注意書き

【安全対策】

ミスト、蒸気、粉じん、煙、ガス、スプレーを吸入しないこと。
取扱い後は、よく手を洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面、呼吸用保護具を着用すること。
環境への放出を避けること。

【応急措置】

飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせない。気分が悪い時は医師に連絡すること。
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。直ちに医師に連絡する。
皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。
皮膚を大量の水と石鹸で洗うこと。直ちに医師に連絡すること。
眼に入った場合：水で15分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。
ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
気分が悪い時は医師に連絡すること。
皮膚刺激又は発疹が生じた場合：医師の診察、手当を受けること。
汚染された衣類を直ちに全て脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
漏出物を回収すること。

【保管】

湿気、日光を避け、容器を密閉し換気の良い冷暗所に施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「区分に該当しない(分類対象外も該当)」又は「分類できない」である。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	: 化学物質
化学名	: ヘキサクロロシクロペンタ-1,3-ジエン (別名) ヘキサクロロシクロペンタジエン、 1,2,3,4,5,5-ヘキサクロロ-1,3-シクロペンタジエン、 ヘキサクロロ-2,4-シクロペンタジエン、 1,1,2,3,4,5-ヘキサクロロ-2,4-シクロペンタジエン、 ヘキサクロロ-1,3-シクロペンタジエン、 ペルクロロシクロペンタジエン、 シクロペンタジエンヘキサクロリド (英名) Hexachlorocyclopentadiene (EC名称)、 Perchlorocyclopenta-1,3-diene、 1,2,3,4,5,5-Hexachloro-1,3-cyclopentadiene、 1,1,2,3,4,5-Hexachloro-2,4-cyclopentadiene、 Hexachloro-2,4-cyclopentadiene、 Perchlorocyclopentadiene、 Hexachloro-1,3-cyclopentadiene、 1,3-Cyclopentadiene, 1,2,3,4,5,5-hexachloro- (TSCA名称)
成分及び含有量	: ヘキサクロロシクロペンタジエン、 98.0%以上
化学式及び構造式	: C5Cl6、 構造式は上図参照(1ページ目)。
分子量	: 272.77
官報公示整理番号	: (3)-2253
化審法	: 公表化学物質(化審法番号を準用)
安衛法	: 77-47-4
CAS No.	: 201-029-3
EC No.	

4. 応急措置

吸入した場合 : 直ちに医師に連絡する。
直ちに、被災者を新鮮な空気のある場所に移す。
被災者を毛布等でおおって体を保温し、呼吸しやすい姿勢で安静にする。
呼吸していて嘔吐がある時は、頭を横向きにする。
呼吸が止まっている場合、または呼吸が弱い場合には衣服を緩め、呼吸
気道を確保した上で人工呼吸(または酸素吸入)を行なう。
気分が悪い時は、医師の手当を受ける。

- 皮膚に付着した場合：直ちに医師に連絡する。
直ちに、汚染された衣類、靴などを脱ぐ。
皮膚を速やかに多量の水と石鹸で洗う。
洗浄開始が遅れたり、洗浄不十分の場合は、皮膚障害のおそれがある。
皮膚刺激又は発疹が生じた時、気分が悪い時は医師の手当を受ける。
汚染された作業衣は作業場から出さない。
汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。
- 目に入った場合：直ちに医師に連絡する。
直ちに、水で15分以上注意深く洗う。その際、顔を横に向けてからゆっくり水を流す。水道の場合、弱い流れの水で洗う。勢いの強い水で洗浄すると、かえって目に障害を起こすことがあるので注意する。
まぶたを親指と人さし指で掘り眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。
次に、コンタクトレンズを着用して固着していなければ除去し、洗浄を続ける。
眼の洗浄が遅れたり、不十分の場合は、眼の障害のおそれがある。
眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。
眼刺激が消失しても、遅れて障害が現れることがあるので、必ず医師の診断を受ける。
- 飲み込んだ場合：直ちに口をすすぎ、うがいをする。無理に吐かせてはいけない。
吐かせると再びのどや食道を通り二重に刺激・損傷を受けることになる。
直に牛乳や卵を飲ませて毒性を希釈する。
牛乳、卵がない時は、コップ数杯の水を飲ませ、体内で毒性を薄める。
意識がない時は、何も与えない。もし、嘔吐が自然に生じた時は、気管への吸入が起きないように、頭を尻より下に身体を傾斜させ、肺への還流を防ぐ。嘔吐後、意識が戻れば、水を飲ませる。体の保温に努め、速やかに医師の診察を受ける。
気分が悪い時は、医師の診断、治療を受ける。
- 予想される急性症状及び遅発性症状：
吸入した場合：咳、咽頭痛、頭痛、下痢、めまい、吐き気、嘔吐、息苦しさ
皮膚に付着した場合：吸収される可能性あり。発赤、痛み、皮膚熱傷。
目に入った場合：発赤、痛み、かすみ眼、重度の熱傷
飲み込んだ場合：腹痛、灼熱感、ショック/虚脱
他の症状については「吸入」参照。
- 医師に対する特別注意事項：医師又は医師が認定した者が、適切なスプレー剤を直ちに使用することを検討する。
肺水腫の症状は2～3時間経過するまで現れない場合が多く、安静を保たないと悪化する。したがって、安静と経過観察が不可欠である。

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤：本製品は不燃性である。
周辺火災の種類に応じた消火剤を用いる。
粉末消火剤、二酸化炭素、散水、噴霧水、泡消火剤
- 使ってはならない消火剤：棒状放水（本品があふれ出て、有害性や環境汚染を引き起こすおそれがある。）
- 特有の危険有害性：火災中に熱分解し、刺激性、腐食性又は毒性のガス及びヒュームを発生する可能性がある。
消火水は汚染を引き起こすおそれがある。
- 特有の消火方法：危険でなければ火災区域から容器を移動する。
火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
- 消火を行う者の保護：有毒ガス等の接触を避けるため、消火作業の際は風上から行い、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置
：漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。
漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。
皮膚、眼などの身体とのあらゆる接触を避ける。
風上から作業し、ミスト、蒸気、ガスなどを吸入しない。
密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。
- 環境に対する注意事項
回収、中和：河川、下水道、土壌に排出されないように注意する。
：ウエス、雑巾、乾燥土又は砂で吸収し、密閉できる空容器に回収する。
後で廃棄処理する。後処理として、漏洩場所は洗剤で洗浄後、水で洗い流す。
- 封じ込め及び浄化の方法・機材
：危険でなければ漏れを止める。
二次災害の防止策：事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	: 本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。 ミスト、蒸気、ガスの発生を防止する。
局所排気・全体換気	: 換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。 本品の蒸気は空気より重いため、床面に沿って換気する。
安全取扱い注意事項	: すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後はよく手を洗う。
接触回避	: 湿気、水、高温体との接触を避ける。
保管	
技術的対策	: 保管場所は、製品が汚染されないよう清潔にする。 保管場所は、採光と換気装置を設置する。
保管条件	: 光のばく露や高温多湿を避けて保管する。 遮光した容器に保管する。 乾燥した場所に保管する。 容器を密閉して換気の良い冷暗所に保管する。 一定の場所を定めて、施錠して保管する。 貯蔵する所には、赤地に白文字で「医薬用外毒物」の表示を行う。 混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
混触危険物質	: 強酸化剤、金属ナトリウム、水
容器包装材料	: ガラス

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	: 設定されていない。
許容濃度	: 日本産業衛生学会 設定されていない。 A C G I H TLV-TWA 0.0ppm
設備対策	: この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。 取扱場所には局所排気又は全体換気装置を設置する。
保護具	
呼吸器用保護具	: 呼吸器保護具（有機ガス用防毒マスク）を着用する。
手の保護具	: 保護手袋（ネオプレン製など）を着用する。
眼の保護具	: 眼の保護具（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）を着用する。
皮膚及び身体保護具	: 長袖保護衣を着用する。 必要に応じて顔面用の保護具、保護長靴を着用する。
衛生対策	: この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後はよく手を洗う。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	
性状	: 油状液体
色	: 淡黄色
臭い	: 刺激臭（鋭い刺すようなにおい）
pH	: データなし
融点	: -10
凝固点	: -2
沸点	: 239
引火点	: データなし
可燃性	: 不燃性
爆発範囲	: データなし
蒸気圧	: 10.7 Pa(20)
相対ガス密度（空気 = 1）	: 9.42
密度又は相対密度	: データなし
比重	: 1.710~1.713 (20/20)
溶解度	: 水にほとんど混和しない（溶けない）（0.2g/100 mL、25 ）。 エタノール及びアセトンに極めて混和しやすい（溶けやすい）。
オクタノール/水分配係数	: log Pow = 5.04
発火点	: データなし
分解温度	: データなし
粘度	: データなし
動粘度	: データなし
粒子特性	: データなし

GHS分類

- 引火性液体 : 不燃性 (ICSC (2005))であることから、区分に該当しないとした。
 自然発火性液体 : 不燃性 (ICSC (2005))であることから、区分に該当しないとした。
 自己発熱性化学品 : 不燃性 (ICSC (2005))であることから、区分に該当しないとした。

10. 安定性及び反応性

安定性 (反応性・化学的安定性)

- : 光により変質する。
 水、空気中の湿気で分解する。
 本品の蒸気は空気より重い。
 危険有害反応可能性 : 加熱すると分解し、塩化水素、ホスゲンを含む有毒で腐食性のフュームを生じる。
 湿った空気と接触すると塩化水素を生成する。
 水と混触すると徐々に反応して塩酸を生じ、多くの金属を侵して引火性、爆発性気体の水素ガスを生じる。
 金属ナトリウムとの接触により爆発することがある。
 強酸化剤と混触すると激しく反応することがある。
 避けるべき条件 : 光、日光、湿気、高温
 混触危険物質 : 強酸化剤、金属ナトリウム、水
 危険有害な分解生成物 : 一酸化炭素、二酸化炭素、塩化水素、ホスゲン

11. 有害性情報

- 急性毒性 : 経口 ラット LD50 = 1,400 mg/kg (雄、雌) (EU-RAR (2007))
 飲み込むと有害 (経口) (区分4)
 経皮 ウサギ LD50 = 340 mg/kg (EU-RAR(2007)、EHC 120 (1991))
 皮膚に接触すると有害 (経皮) (区分3)
 吸入 (蒸気) ラット LC50 = 1.6 ppm (雄)、3.5 ppm (雌)
 (EU-RAR (2007)、ATSDR (1999)、EHC 120 (1991))
 吸入すると生命に危険 (蒸気) (区分1)
 皮膚腐食性 : 吸入 (ミスト) 分類できない。
 ウサギを用いた皮膚刺激性試験において、本物質の原液又は10%水溶液を適用した試験において腐食性がみられた (EU-RAR (2007))。
 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷 (区分1)
 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性: ウサギに本物質 (濃度不明) 0.1 mLを適用した眼刺激性試験において、壊死や軟白化がみられ、重度の刺激性が認められたとの報告がある (EU-RAR (2007)、EHC 120 (1991)、ATSDR (1999))。
 重篤な眼の損傷 (区分1)
 呼吸器感作性 : 分類できない。
 皮膚感作性 : モルモットを用いた皮膚感作性試験 (OECD TG 406) において陽性率が100%であり、皮膚感作性物質であると結論されている (EU-RAR (2007))。
 またモルモットを用いた他の感作性試験においても、供試した動物全てに感作反応がみられたとの報告がある (EHC 120 (1991)、EU-RAR (2007))。
 以上の結果から、区分1とした。
 アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ (区分1)
 生殖細胞変異原性 : 区分に該当しない。
 生殖細胞を用いる in vivo 経世代変異原性試験であるマウスを用いた優性致死試験で陰性の結果 (EHC 120, 1991、ATSDR, 1999、NTP TR437, 1994)、体細胞を用いる in vivo 変異原性試験であるマウス赤血球を用いた小核試験で陰性の結果 (IRIS, 2001、ATSDR, 1999、NTP DB, 2005) であった。
 発がん性 : 区分に該当しない。
 ACGIH (7th, 2001) でA4、EPAで1986年にE、1996年にNL (IRIS (2001)) に分類されている。また、SIAP (2007) は、ラット、マウスの2年間吸入ばく露発がん性試験結果から、いずれも発がん性が認められていないことなどから、発がん性の証拠はないと評価している。以上より、ACGIHの分類からは「分類できない」、EPAの分類からは「区分に該当しない」となるが、ラット、マウスで発がん性が認められていないため発がん性の証拠はないとの評価 (SIAP (2007))もあわせて、EPAの分類を優先し「区分に該当しない」とした。
 生殖毒性 : 分類できない。
 特定標的臓器毒性 (単回ばく露) : 本物質は気道刺激性がある (ACGIH (7th, 2001)、ATSDR (1999)、EHC 192 (1997)、IRIS Tox. Review (2001)、HSDB (Access on August 2014))。
 ヒトにおいては複数の事例が報告されているが、分類に利用できるデータはない。実験動物においては、ラットの吸入ばく露では、1.4 ppm (0.016 mg/L) 以上で肺の異常 (赤色の限局性又はびまん性硬化)、肺出血、0.15-78.6 ppm (0.002-0.88 mg/L) で気管支壊死組織の好中球、赤血球及びフィブリン浸潤、閉塞性気管支炎、細気管支炎、結合組織増殖、ラット、マウス、ウサギ、モルモットの0.3-66 ppm (0.003-0.74 mg/L) で、肺の充血、浮腫がみられている。経口投与では、ラットの1,260-2,000 mg/kg、ウサギの180-2,100 mg/kgで

下痢、立毛、円背位、歩行異常、嗜眠、呼吸数減少、眼瞼下垂、四肢蒼白、ラット、ウサギの261-1,959 mg/kgで肺の充血、浮腫、ウサギの経皮適用401-5,719 mg/kgで肝臓、腎臓の壊死、肝臓の退行性変化、腎臓の腎尿細管変性がみられている。以上の実験動物への影響は死亡動物のみならず生存個体でも認められたとの記載があり、吸入及び経口ばく露での呼吸器への影響、経皮ばく露での肝臓、腎臓への影響はいずれも区分1のガイダンス値範囲の濃度で認められた。さらに、EHC 192 (1997)、IRIS Tox. Review (2001) で、投与経路とは無関係に急性ばく露により肺、肝臓、腎臓に毒性を示し、病理変化が認められると記載されている (EU-RAR (2007)、ATSDR (1999)、EHC 192 (1997)、IRIS TR (2001))。

以上より、区分1 (呼吸器、肝臓、腎臓)、区分3 (麻酔作用) とした。
呼吸器、肝臓、腎臓の障害 (区分1)
眠気又はめまいのおそれ (区分3)

特定標的臓器毒性
(反復ばく露)

: EHC 120 (1991)、NTP TR437 (1994)、IRIS (2001)、ATSDR (1999) のラットおよびマウスを用いた13週間吸入暴露試験において呼吸器への影響が区分1のガイダンス値範囲の濃度で認められたとの記述、ならびにラットおよびマウスを用いた経口投与試験において腎臓への影響が区分2のガイダンス値範囲の投与量で認められたとの記述から、区分1 (呼吸器)、区分2 (腎臓) とした。
長期又は反復ばく露による呼吸器の障害 (区分1)
長期又は反復ばく露による腎臓の障害のおそれ (区分2)

誤えん有害性

: 分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性 短期(急性) : 甲殻類 (ミシッドシュリンブ) 96時間LC50 = 7 µg/L、
魚類 (ファットヘッドミノー) 96時間LC50 = 7 µg/L
(いずれもEU-RAR, 2007、EHC 120, 1991)

水生環境有害性 長期(慢性) : 慢性毒性データを用いた場合、急速分解性がなく (BIOWIN)、甲殻類 (ミシッドシュリンブ) の28日間NOEC = 0.3 µg/L (EU-RAR, 2007) であることから、区分1となる。
長期的影響により水生生物に非常に強い毒性 (区分1)

残留性・分解性

: 難分解性

生物蓄積性

: 高濃縮性。Log Pow = 5.04

土壌中の移動性

: データなし

オゾン層への有害性

: 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

: 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票 (マニフェスト) を交付して廃棄物処理を委託する。
廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。
本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。
(参考) 燃焼法

汚染容器及び包装

可燃性溶剤と共にアフターバーナー及びスクラパーを具備した焼却炉の火室へ噴霧し、できるだけ高温 (ダイオキシン発生抑制のため850 以上) で焼却する。
: 内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。
空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

緊急時応急処置指針番号 : 151

国際規制

海上規制情報 (IMDGコード/IMOの規定に従う)

UN No. : 2646
Proper Shipping Name : HEXACHLOROCYCLOPENTADIENE
Class : 6.1 (毒物)
Sub risk : -
Packing Group : I
Marine Pollutant : Yes (該当)
TRANSPORT IN BULK ACCORDING TO ANNEX II OF MARPOL 73/78 AND THE IBC CODE

POLLUTANT CATEGORY : No (非該当)
 Limited Quantity : -
 航空規制情報 (ICAO-TI/IATA-DGRの規定に従う)
 : 積載禁止

国内規制

陸上規制情報 (毒劇法、道路法の規定に従う)
 海上規制情報 (船舶安全法/危険物船舶輸送及び貯蔵規則/船舶による危険物の運送基準等を定める告示に従う)
 国連番号 : 2646
 品名 : ヘキサクロロシクロペンタジエン (パークロロシクロペンタジエン)
 クラス : 6.1
 副次危険 : -
 容器等級 : I
 海洋汚染物質 : 該当
 MARPOL73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送の有害液体物質の汚染分類 : 非該当
 少量危険物許容量 : -
 航空規制情報 (航空法/航空法施行規則/航空機による爆発物等の輸送基準を定める告示に従う)
 : 積載禁止

特別の安全対策 : 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れののないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。
 危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬する。
 危険物の運搬中、危険物が著しく漏れる等災害が発生するおそれがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずると共に、もよりの消防機関その他の関係機関に通報する。
 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。
 重量物を上積みしない。
 車輛等による運搬の際にはイエローカードを運搬人に保持させる。

労働安全衛生法 : 名称等を表示すべき危険物及び有害物
 (政令番号 第509号「ヘキサクロロシクロペンタジエン」、
 対象重量%は 1)
 名称等を通知すべき危険物及び有害物
 (政令番号 第509号「ヘキサクロロシクロペンタジエン」、
 対象重量%は 0.1)
 (別表第9)

化審法 : 旧第三種監視化学物質 No.215 (官報公示日 : 2010/03/19)

化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法) :
 R5年3月31日まで、
 ・種別 「第2種指定化学物質」
 ・政令番号 「2-83」
 ・政令名称 「ヘキサクロロシクロペンタジエン」
 R5年4月1日からPRTR法の対象物質から除外

消防法 : 非該当
 毒物及び劇物取締法 : 毒物「ヘキサクロロシクロペンタジエン」(政令第1条第26号の2)、
 包装等級

船舶安全法 : 毒物類・毒物 (危規則第2, 3条危険物告示別表第1)

航空法 : 積載禁止

輸出貿易管理令 : キャッチオール規制 (別表第1の16項)

HSコード : 2903.89

第29類 有機化学品

・輸出統計番号 (2022年4月1日版) : 2903.89-900

「炭化水素のハロゲン化誘導体」

- 飽和脂環式炭化水素、不飽和脂環式炭化水素又はシクロテルペン

炭化水素のハロゲン化誘導体 : その他のもの

- その他のもの」

・輸入統計番号 (2022年4月1日版) : 2903.89-099

「炭化水素のハロゲン化誘導体」

- 飽和脂環式炭化水素、不飽和脂環式炭化水素又はシクロテルペン

炭化水素のハロゲン化誘導体 : その他のもの

- その他のもの : その他のもの」

16. その他の情報

(注) 本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

取扱注意事項 :

本製品の取扱いは毒物劇物取締法の規定に従い、購入、保管、使用及び廃棄には細心の注意を払うこと。毒物劇物取扱等の責任者は、必要に応じ取扱う者に対し労働安全衛生、漏洩防止、緊急時の対応、環境影響、使用記録、保管庫施設、紛失盗難防止などについて教育、訓練を実施し、事故の予防に努めること。

参考文献 :

化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ	化学工業日報社
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ	化学工業日報社(2007)
化学物質の危険・有害便覧	中央労働災害防止協会編
化学大辞典	共同出版
安衛法化学物質	化学工業日報社
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版
化学物質安全性データブック	オーム社
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	三共出版
化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances	NIOSH CD-ROM
GHS分類結果データベース	nite(独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP
GHSモデルMSDS情報	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じて作成しています。